

# 大団円

～校長室より～



「久玉っ子」をどのように育てたいのか…  
 親としての使命感  
 ○どのような知識も技能も体力も道徳性に裏付けられて初めて意味を持つ

道徳によるしつけがなされてない子どもは物事を善悪でなく好き嫌いで判断してしまう。やらないこと、やってはいけないことの今の子どもへの判断基準は自分が不利になることだけである。

同じ能力であれば、家庭の状況が厳

しい方が子どもが努力する度合いは高くなる。負ける練習、恥をさらす訓練、かっこ悪い体験をできるだけ多く子どもにさせたい。育てておくことである。人間の身体は使ったところが強くなる。将来のために、忍耐力、回復力の旺盛な人間に育ててやることである。  
 (川上清司氏の文章から抜粋)

以前読んだ、ある雑誌に載っていた文章です。厳しいと思われる部分もあるでしょうが、子どもの将来を考えたとき、確かにうなずけることです。

子どもが「自立」できよう、子育てのあり方として心で得ておけるよう、子育てを教えています。子どもが失敗しないように、つまずかないようにと、何事も平らにしてやるのは簡単なことですが、それはもしかしたら子どものためにならないのかも…と、立ち止まっ

て考えることも必要かもしれません。これから先、「久玉っ子」が立ち向かう壁が次第に高く厚くなっていったときでも、その折々に簡単にあきらめない、何とか自力で、あるいは誰かの力を借りてでも解決しよう、乗り越えよう、しぶとく生き抜いていくことができるよう育てたいものだと思います。

中にはあまり苦勞や我慢もせず、自分の持っている力で順調に伸びていく子どももいるでしょうが、ちよつと手を伸ばせば届く苦勞(達成できる) (我慢・負荷)を経験させることが子どもの成長につながるのではなないでしょうか。

今日は本田校長先生が教員になって13483日目  
 そして、平成28年3月31日は13513日目

## くたまがみついったあっ!

学校アンケート、お世話になっています。今、集計中ですが、あたたかい言葉をたくさんいただいています。ありがとうございます。

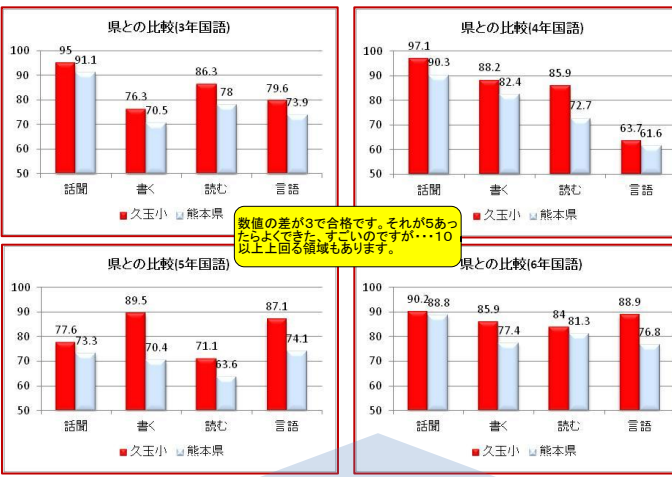
子どもたちだけの約束(休みの日に遊ぶ約束) 昼食を人の家で食べて親は知らないのか、何も親はお礼を言わないあいさつしない。親同士のやり取りがある場合が良いと思います。子どもたちだけの約束で朝から夕方まで遊ぶのはどうかと思います。(似たコメントをいくつかいただきました。大切なことです。このことはみんな考えてみましょう。もちろん、子どもさんには早速話してください。JBV教頭)

この1年間大変お世話になりました。ありがとうございます。今年はいろんな場面で新たな試みがあり、工夫され、何をとも充実した意味のあるものになりました。たとえば持久走大会で思いっきりコース変更されたところ、先生方の面白いパフォーマンスがあったところ。運動会で新しい種目を取り入れたところ。たくさんの感動を見せてくれた運動会。地域と密着し、いろいろな行事で連携をとり、豊かな授業を作り上げたところ。子どもたちの日に日に成長していく姿が輝いて見えた1年でした。

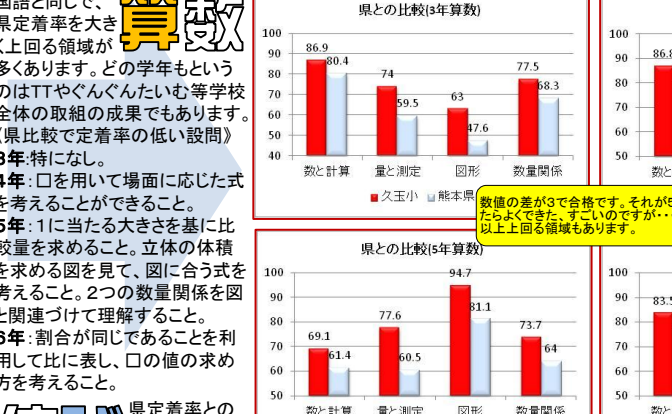
我が子どもですけど自分からあいさつをする子どもたちが少ないです。中には休日自転車に乗るときヘルメットをかぶらず乗ってる子がいます。学校の方でも指導をもう少ししてもらいたいです。

# 久玉っ子の学力を県 学力調査から考える

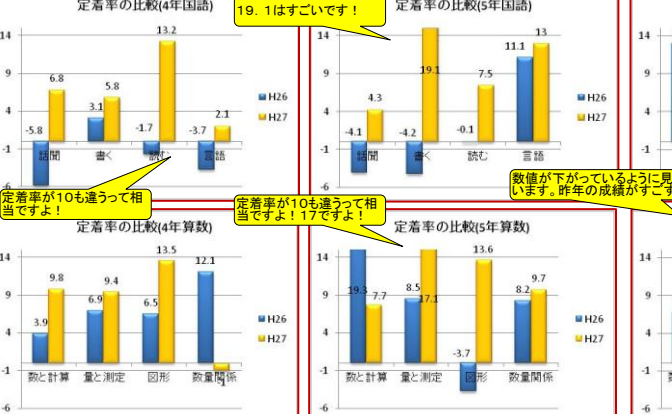
12月実施の県学力調査の結果です。これを、県の定着率との比較で見ます。どの学年も県の定着率をほぼ上回っています。大きく上回っている領域もあります。これはたいへんすごいことです。なお、学年別の成績の提示は比較にもなるため、なかなか掲載しにくいのですが、それができるのはすべての学年で、結果が出ているからです。



国語 県との比較で、定着率が「プラス3」で十分合格です。それなのに、5以上、なかには10以上上回っている領域もあり、子どもたちの頑張りがかがえます。  
 《県比較で定着率の低い設問》  
 3年:カタカナの「っ」ひらがなの「っ」を辞書に出でくる順番で並べること。  
 4年:3年で学習した「仕」を「つかえる」と読むこと。4年で学習した「種類」を正しく書くこと。  
 5年:登場人物の心情や場面の様子について感じたことをまとめること。  
 6年:特になし。



算数 国語と同じで、県定着率を大きく上回る領域が多くあります。どの学年もというのはTTやぐんぐんたいむ等学校全体の取組の成果でもあります。  
 《県比較で定着率の低い設問》  
 3年:特になし。  
 4年:口を用いて場面に応じた式を考えることができること。  
 5年:1に当たる大きさを基に比較量を求めること。立体の体積を求める図を見て、図に合う式を考えること。2つの数量関係を図と関連づけて理解すること。  
 6年:割合が同じであることを利用して比に表し、口の値の求め方を考えること。



もちろん、ここに提示した学力は全体としての定着のバロメータですが、子どもたち一人一人を見ると、その課題はそれぞれです。私たちは、これからも、子どもたち一人一人が持っている力を十分発揮でき、もっと成長していける学校作りを目指します。「まだやれるね」「すごいね」「もっとがんばる姿を見せて」「ずっと応援してるよ」保護者の皆様のポジティブ言葉シャワーで、久玉っ子はもっと成長できます。



【校訓】  
 やさしく  
 かしこく  
 すこやかに

平成28年3月1日  
 第39号

天草市立久玉小学校  
 学校通信  
 編集代表  
 校長 本田勝則

